4.3　機械情報工学科

4.3.1　一般的心得

(1) 安全の心構え

1)　実験・研究作業は、創造的かつ探求的作業である。したがって、未知の要因が多く予測の困難な危険が含まれていることを強く認識しておくこと。

2)　実験・研究では、高速で動くロボット、高速で加工する工作機械、高圧や高温あるいは低温状態をつくり出す装置などを使用するので、常に危険と隣合わせにいることを強く確認しておくこと。

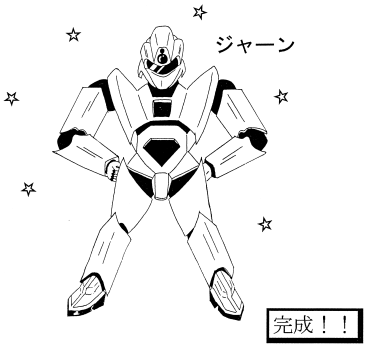
3)　実験・研究を行う前に、最大限に想像力を発揮して、起こり得る事故を想定して、その予防策を講じておくこと。

4)　実験・研究中は、万一の時のことを考え、試験機や機械の緊急停止方法を常時考えておくこと。

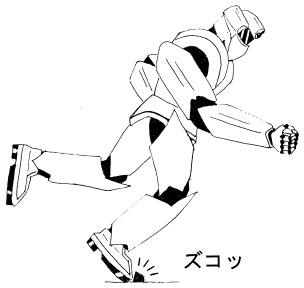
5)　身体の体調を整えて実験・研究に臨むこと。

6)　実験・研究中は、行っている実験や研究に集中すること。酒気帯びは厳禁。雑談をしたり、不用意に装置から離れることは事故のもとになる。五感を働かせ、異常の察知に努めること。

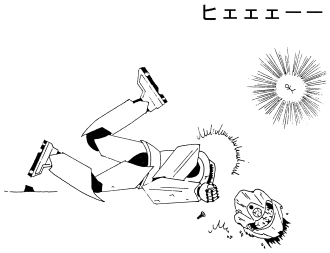
7)　あらかじめ定められた物以外は実験室の何にでも手を触れてはいけない。動かすことを許されている場合でも、なかなか動かないときには、無理に動かそうとせず、担当教員に相談すること。



自慢のロボでも



このようなことがあるので



近寄りすぎないように

(2) 基本的事項

(2)-1.　　服装、履物

1)　室内では、マフラー、ネクタイ、手袋の着用は厳禁とする。機械に巻込まれる危険があるからである。白

衣やオーバコートなど､肌に密着しない衣服の着用も厳禁である｡長髪は束ねておくこと。また、切削油や潤滑油、高温火花の飛来を受けることを予め心得ておくこと。

2) 感電､物の落下､滑りなどが起こることがあるので､しっかりとした靴を使用すること。サンダル履きは厳禁とする。

(2)-2. ヘッドホンステレオ、携帯電話などの使用禁止について

1) 周囲音が聞こえない場合、危険が回避できない。ヘッドホンなどで音楽を聴くことを禁止する。

2) 携帯電話が鳴ったため、本人や周囲の者の注意がそちらに向けられ、事故を発生することがある。携帯電話の電源を切っておくこと。

(2)-3. 整理整頓

1) 機械や実験装置使用後の後片づけはもちろんのこと、足元や頭上の障害物を常に除去しておくこと。

2) 実験に使用する工具や試料等については保管場所を決め、不安定な状態で放置しないこと。

3) 廊下や階段、通路には物を置かないこと。緊急の場合の退路がふさがれることになる。

(2)-4. 実験計画

1) 実験に取りかかる前に指導教員の指導、担当職員および TA の助言を受けることは言うまでもないが、実験の目的および内容を各自理解しておくことが肝要である。

2) 実験には計画性を持たせ、疲労の残る長時間の実験や深夜の作業は極力避けるようにすること。

3) やむを得ず夜間や休日に実験を行う場合にはトラブル発生時の対処の方法（緊急連絡先）を確認しておくこと。

(3) 火気

1) 火気使用中は、必ず 1 名は在室し、火気の側から離れないこと。

2) ガスを使用するときは、周囲に可燃物がない所で使用するとともに、換気に十分注意すること。また、使用後は必ず元栓を閉めること。

3) 引火性の液体を使用するときは、周囲に火気がないかを確かめ使用すること。また、換気に十分注意すること。

4) たばこは指定された喫煙場所で吸うこと。そして、吸殻の後始末を完全に行うこと。

(4) 電気、ガスおよび水道の使用

1) 機械の電装品を修理したり取りかえたりする場合は、配電盤の元電源を遮断し、それを確認してから行うこと。

2) 不用意な電源の投入を行わないこと（急に機械が回転することがある)。

3) 電気機器による感電に注意し、濡れた手や導電性の靴を履いてこれらを操作しないこと。

4) 電気配線がむき出しにならないようにすること。とくに、接続部は絶縁物で被い、漏電や感電の防止対策を十分行うこと。

5) ガス器具は周囲に可燃物がないところで使用し、換気に注意すること。使用後は必ず元栓を閉めること。

6) 水道の使用に当たっては、水量に注意し、長時間使用の場合は水圧の変動および排水溝の詰まりに注意すること。

(5) 火災および地震

1) 消火器のある場所とその使用法について、各自熟知しておくこと。

2) 地震時の転倒や破損に対する防止処置を講じておくこと（とくに、危険な薬品や重量物)。

3) 日頃から退路を確認しておくこと。

4) 部屋の最終退出者は、ガスの元栓を閉め、電気のスイッチを切り、部屋の窓と扉を閉め施錠すること。

5) もし、火災など緊急事態が発生した時は、

   a) あわてないこと。

   b) 初期消火に努めること。ただし、危険である場合はこの限りではない。

   c) 周囲の者に大声で知らせること。

   d) 部屋の壁に貼りつけてある緊急時の連絡先（夜間は正門守衛所　内線 7982）へあわてずに連絡すること。

(6) 工具等の使用

1) 先の尖った工具を使用するときには、力の作用する前方に手や身体を置かないこと。

2) ハンマーを使用している人の近くで作業を行わないこと。

3) ハンマーは、使用前に柄から抜けないことを十分確認し、使用すること。

4) 油などが付着した滑りやすい手で工具を使用しないこと。

5) きつく締まっているねじを緩めるとき、強引に行わないこと。

6) 必要に応じて、軍手や皮手袋を使用すること。

(7) 運搬および高所での作業

1) 重量物の取扱いには十分注意し、安全な靴を履き、重量物の下に足を置かないこと。また、不自然な姿勢で取扱わないこと。

2) 重量物の運搬時には軍手や皮手袋を使用すること。

3) 重量物を運搬するときは、台車を使用すること。

4) クレーンを使う場合は、取扱責任者の指示を受け、ワイヤーかけに十分注意すること。

5) 高所における作業は足元の安全を常に心がけ、転落防止に十分努めること。また、工具や実験器具等を下に落とさないこと。

6) 架台の周辺で作業をする際には、落下物から身を守るためヘルメットを着用すること。

7) 機器の取付・取外しをするときも不自然な姿勢で行わないこと。

(8) 排水・廃液および廃棄物

1) 廃液はクロム系廃液、水銀系廃液、写真廃液（現像液、定着液)、廃油等に分類して専用のポリタンクに保管すること。

2) 有機溶剤や重金属含有溶液は、洗浄に伴うごく微量なものであっても、手洗い場や便所などの生活排水口から流さないこと、これらの廃液は各研究室備えつけの専用の容器に貯留すること。

3) 廃液回収については月に 1 回、廃棄物については年に 3 回廃棄日があるので、そのときまで実験室で保管する。詳細は『生田キャンパス課　内線 7556』に問い合わせること。

(9) 危険物および薬品

1) 危険物第 4 類（灯油、ガソリン等）の使用に際しては、落下物による容器の破損・電気のスパーク、換気、室温の上昇などに注意すること。

2) 多量の危険物および薬品を実験室に置かないこと。

3) 危険物および薬品に火気を近づけないこと。

4) 内容物を示すラベルを貼っておくこと。

5) 必要なとき以外は栓をし、濡れたり、あふれたり、飛散しないように注意すること。

6) 強酸、強塩基などの薬品は指定場所に保管し、使用に当たっても十分注意すること。

(10)居残り実験

1) 休日または 22 時以降も実験や実習を行う予定がある場合は、前日の午前中までに指導教員の許可を得た上で理工学部事務室で所定の手続きをとること。もし、当日やむを得ず 22 時以後居残る必要が生じたら、早急に守衛所（内線　7982）に連絡し手続きをすること。

2) 実験や作業は、原則として 1 人では絶対行わないこと（万一の場合、助けてくれる人が

いない)。

3) 火災などの緊急時は、各実験室の壁に貼りつけてある緊急時の連絡先へあわてずに連絡すること。

4) 部屋を退出するときは、火気や電気のスイッチを切り、部屋の窓を閉め、施錠して帰ること。

４．３．２　授業科目の実験実習における安全の心得

機械情報工学科における授業科目のうち、実習をおこなう科目は機械情報工学実験、メカトロニクス実験、製図・CAD1、同 2、機械システム設計製図、メカトロ設計製図である。

(1) 一般的な注意事項

1) みずから安全のための意識を高め、事故防止に努めること。

2) テキストや関連の資料により予習をしておくこと。

3) 指導教員の安全のための講義、ならびに各作業の担当職員と TA の注意を厳守すること。

4) 作業中の本人だけでなく、周りにいる人も常に事故防止に注意すること。

5) 作業に夢中になっていると、自分が危ない状態にあることがわからない場合が多いので、周囲にいる人が監視すること。

6) 体調が優れない場合は我慢せずに、指導教員、担当職員、TA に申し出ること。

7) その他、機械情報工学科の「4．3．1　一般的心得」を熟読し、厳守すること。

(2) 実習中の注意事項

1) 機械の使用説明書を熟読すること。教員や先輩の話を聞くことも大事である。緊急停止スイッチの場所などを確認しておくように。

2) やたらとスイッチを押さないこと。面白半分にスイッチを入れたため大事故をおこすことがある。

3) 工具、試験片の取付けに注意すること。しっかり取付けたつもりでも、機械の振動によりゆるみ、飛出すことがある。慎重に締付けること。途中の点検も怠らないこと。

4) 機械の運転中は運動部分に近寄ったり、ロボットなどの行動半径に立ち入ったりしないこと。もし、異常な動作をしたり、発煙したりしたときは直ちに非常停止スイッチを押す。

5) 作業が終わったときは機器の電源スイッチを切ること。ただし、電源切断不要との指示があるコンピュータやその他の機器類はこの限りではない。

6) 後片付けを必ずおこない整理・整頓・清掃・清潔（4S）に努めること。怠ると、機械に巻込まれ飛散して次に作業する者に危害を及ぼすおそれがある。

(3) 各実験実習科目における注意事項

(3)-1. 機械情報工学実験、メカトロニクス実験

機械情報工学実験、メカトロニクス実験では、個人が直接機械を操作する。また、工作機械を使った実習を含む。油断すると死に至る事故につながりかねない。また、数多くの分野の実験が用意され全く異なった作業を行うので、下記の分野毎の注意を熟読し、安全な作業を行うよう努めること。また、適宜学外の工場を見学することがある。「4．3．4 (3) 学外工場見学における注意事項」を読むように。

a) **工作実習**

各種工作機械や機具の使用上の注意に関しては、第 5 章「共通施設利用の安全」の「5．1 ものつくりセンター」を参照し、記載内容を厳守すること。

b) **共通実験**

工作機械や電子測定器を使う。工作機械については第 5 章「共通施設利用の安全」の「5.1 ものつくりセンター」を参照すること。また、電子測定器には高電圧部分があるので、説明を受けるまで機器を操作しないこと。

c) **知能機械実験**

実験には特に危険なものは使用しないが、使用器具や装置は説明があるまで手を触れないこと。特に、電源回路やモータ駆動用のアンプの配線に触れると感電することがあるので注意すること。また、研究室内のロボットなどの実験装置は、微妙な調整が必要なものがあるので、むやみに触らないこと。

d) **機械力学実験**

「4．3．3 卒業研究・大学院研究における安全の心得」の「機械力学研究室」を参照すること。

e) **計測工学実験**

「4．3．3 卒業研究・大学院研究における安全の心得」の「計測工学研究室」を参照すること。

f) **エンジンシステム実験**

「4．3．3 卒業研究・大学院研究における安全の心得」の「エンジンシステム研究室」を参照すること。

g) **メカトロニクス実験**

危険な機器は使用しないが一般的な注意事項を遵守すること。

h) **生体情報工学実験**

「4．3．3　卒業研究・大学院研究における安全の心得」の「生体情報工学研究室」を参照すること。

i) **環境情報実験**

「4．3．3　卒業研究・大学院研究における安全の心得」の「環境情報研究室」を参照すること。

j) **情報統計学実験**

危険な機器は使用しないが一般的な注意事項を遵守すること。

(3)-2.　**製図・ＣＡＤ１、同２、機械システム設計製図・メカトロ設計製図**

- 室内では禁煙、飲食厳禁である。飲食物の持込みも禁止する。また、携帯電話等の電源は OFF にしてバッグ等に納めておくこと。
- 室内を常に清潔に保つこと。
- 製図器（コンパスなど）の使用に注意すること。
- 見本の取扱い、測定工具の利用には注意を払い、危険な取扱いを避けること。
- 製図機械は丁寧に扱うこと。
- シャープペンシルの粉、消しゴムかす等のごみも周囲を汚さないようにゴミ箱に捨てること。
- コンピュータおよびフロッピーディスクに磁気性のものを近づけないこと。
- 必要以外に機械を触ったり、操作をしないこと。不用意にボタン、スイッチに触れ、機械が暴走してけがをすることがある。
- 機械の回転部分に手を近づけないこと。
- 製図見本等の取り扱いに注意すること。見本のエッジでけがをしたり、足下に落として大けがをすることがある。

４．３．３　卒業研究・大学院研究における安全の心得

4 年次の卒業研究、大学院での研究実験は機械情報工学科の各実験室で行う。実験を安全に行うためには、配属された各実験室の雰囲気に早くなじみ、実験機器の安全で正確な操作を修得することが大切である。各研究室には実験装置のほかに工作機械も設置されていることがある。工作機械の使用に当たっては「5．1　ものつくりセンター」を参照のこと。また、「4.3.1　一般的心得」も合わせて熟読すること。以下、各研究室における注意事項を列挙する。

(1) 知能機械研究室

1) 研究室内での一般的注意

- コンピュータの前での飲食は厳禁とする。
- 整理整頓を第一とし、研究室内は清潔に保つこと。
- 床配線に注意し、電源コードを引っかけないように特に注意すること。
- 使用した器具は必ず元の位置にしまうこと。特に、半田ごては使用後は必ずコンセントからはずし、冷却後に元の位置にしまうこと。

2) 各種ロボットの実験

- 二人以上で実験を行うこと。
- マニュアルを熟読し、よく理解してから使用すること。
- 特に、手動による運転時は危険であるので、一人は常に停止できるように停止スッチを保持し、運転するものはヘルメットを着用すること。
- 運転時はロボットの作業領域に立ち入らないこと。

3) ボール盤の使用

- 使用中はゴーグル（防塵眼鏡）を着用すること。
- 加工物はしっかりと固定すること。
- ドリルの刃は正確にとりつけること。
- 回転中の刃に決してふれないこと。
- 使用後は掃除をすること。
- 他の人が使用中は、黄色の領域にははいらない事

4) NC 加工機、基板加工機

- 加工時は、ケースのフタを閉めること。
- 使用後は、整理・整頓後掃除すること。

(2) 機械力学研究室

1) 実験時の注意事項

- 材料試験機、疲労試験機、振動台、加振機の使用に際しては、事前に実験計画を提示し、教員の指示を仰ぐこと。また機器の取扱いに詳しい人の指導のもと、必ず複数人で相互確認しながら使用すること。使用後は、初期状態に戻し、電源を切ること。
- 夜間（深夜から未明）、日曜は特別な場合を除いて避けること。
- 教員に無断で本研究室以外の人に使用させてはならない。
- 振動実験解析棟を使うときは、5.3 章「振動実験解析棟」の注意事項に従うこと。

2)　全般的な注意事項

- 実験室内は整理、整頓、清掃を心掛け、実験装置、測定機器、工具を放置しないこと。実験装置はコンテナに入れるなど管理しておくこと。研究活動に不要、無関係なものは持込まないこと。
- 機器、工具等の損壊、故障があった場合は教員に報告すること。
- 加工屑等は必ず清掃しておくこと。
- 工作工場を使うときは、5.1 章「ものつくりセンター」の注意事項を熟読し、職員の指示に従うこと。

(3) 材料システム研究室

一般的注意事項を遵守すること。

(4) ＣＡＤ／ＣＡＭ研究室

1)　5112 室実験室における事項

- 禁煙。
- 走査電子顕微鏡、X 線残留応力測定装置等の機器の操作は「取扱説明書」を熟読し、担当教員から十分な指導を受けてから使用すること。
- 機械装置等の高電圧カバー、X 線被爆防止カバー等、所定の安全装置を外してはならない。
- 各装置、機器等の電源を投入する前に、稼働部、配線コード等に注意し、ねじのゆるみ、コードの破損、短絡、および漏電等異常の無いことを確かめる。
- 各装置、機器等の電源を投入するときは、必ず安全を確かめてから行うこと。
- 重量物を運ぶときは安全靴等を履き、けがをしないように注意する。
- エッチング廃液、洗浄後の廃液は所定のポリ容器に入れ、廃液処理の日に指定された場所に持って行くこと。
- 真空蒸着を行うとき、発色光を直視してはならない。
- 旋盤、研削盤等の工作機械があるので、5．1「ものつくりセンター」の一般注意事項および個々の工作機械の注意事項をよく読んでおくこと。
- 運転前の安全確認、機械の手入れを行っておくこと。
- 電源投入時の自分および周囲の人間の安全確認、運転中の安全確認に注意を怠らない。
- 計測、工具、工作物等の装着、脱着は機械を停止して安全な状態で行うこと。
- 機械の回転方向には立たない。機械の回転部分に手を出さない。

(5) 計測工学研究室

1) 研究室の使用について

- 整理・整頓を心掛け、使用した実験器具等は所定の位置に戻すこと。
- 実験終了後は、全ての機器の電源を切ること。また、終夜運転等を行う場合には、指導教員の許可を得た上で、安全を確保し、張り紙等により注意案内を施すこと。

2) 電子機器の使用について

- 電子機器は、使用方法を誤ると感電、けが、場合によっては死に至る恐れがある。また、火災の原因にもなるため、機器の取り扱い方法を理解した上で使用すること。
- 分電盤へ機器を接続する必要がある場合には、電圧の大きさに関わらず指導教員に申し出ること。

3) 工作機械の使用について

- ボール盤、バンドソー等の工作機械を使用する場合には、指導教員から安全教育を受けること。
- 各工作機械の動作原理を理解した上で作業を行うこと。作業を行う場合には、保護メガネを必ず着用すること。また、一人作業は避けること。
- 工作機械への巻き込まれを防止するため、手袋は着用しないこと。

4) レーザ光源の使用について

- レーザ光源を使用する場合には、指導教員から安全教育を受けること。
- レーザ光の特性を熟知した上で実験を開始すること。レーザ光による生体への影響は、特に、眼・皮膚への障害が考えられるため、実験中は、対応した波長の保護メガネを必ず着用し、皮膚の露出の少ない衣服を着用すること。

5) 薬品の使用について

- 研究室に保管されている薬品を使用する場合には、指導教員から安全教育を受けること。
- 廃液の取り扱いは、「4．3．1　一般的心得」に従うこと。

(6) 固体力学研究室

1) 万能材料試験機及びねじり試験機

- 材料試験をする場合は、必ず 2 名以上で行うこと。
- 試験機のまわりを整理整頓し、作業スペースを確保すること。
- コンプレッサーの回転部に手を触れないこと。
- 試験片を確実に取りつけること。
- 荷重の設定を確認すること。

- 実験中は、試験片に顔を近づけないこと。
- 試験片の取り外しの際には、チャック部で手を傷付けないようにすること。

2) その他

- 重量物の移動には、複数名で作業を行うこと。
- ボール盤を使用する場合は、必ず教員の許可を得ること。使用の際には、防護めがね等を着用すること。
- 無断で薬品を使用しないこと。
- 高所に物を置かないこと。
- 火を使用した場合は後始末する。ガスの元栓を締めること。
- 電熱器類は使用後必ず電源を切ること。
- 研究室の最終退出者は、ガスの元栓を締め、電熱器、エアコン、照明などの電源を切り、施錠をして退出すること。

(7) システム制御研究室

一般的注意事項を遵守すること。

(8) 制御工学研究室

- 私物は各自ロッカーに保管すること。
- 計算機のアカウントの貸し借りは禁止する。
- 計算機及び実験装置付近での飲食は禁止する。
- その他は、「一般的心得」に従うこと。

(9) 設計工学研究室

一般的注意事項を遵守すること。

(10)エンジンシステム研究室

1) エンジン組み立て時の注意

- ピストンとシリンダの一部はガラスでできている。割らないように注意すること。破損した場合、ただちに教員に報告する。不用意にガラスのかけらに触れないこと。
- ピストン、フライホイールへのコネクティングロッドの取付けに際しては、運転中のネジの緩み防止に留意すること。組立図詳細を参考に、必ずダブルナット(ロックナット)にて行うこと。

2) エンジン運転前の点検

- エンジン各部のネジに緩みが無いことを確認する。上記 1）の第 2 項は特に重要。
- 組立てが完了したら教員のチェックを受けること。

3) エンジン運転中の注意

- エンジン回転軸の半径方向には立ち入らないこと。
- 回転部分に不必要に顔や手を近づけないこと。
- 加熱部の温度は 400～500℃に達する。触れないこと。
- 加熱しすぎないこと。エンジン回転速度が上がり始めたら加熱を中止する。
- エンジンの回転音や振動に注意を払い、異常と思われる場合は直ちに加熱を中止すること。

4) エンジン停止後の注意

- エンジンが停止した後も、加熱部は相当高温になっている。不用意に触らないこと。
- エンジンの分解は停止後 10 分程度放置してから行うこと。

(11)メカトロニクス研究室

- 空気源装置（コンプレッサ）がある。機械自体は内部に手を触れなければ危険がないが、高圧容器や専用配管以外に接続してはならない。破裂の危険がある。
- ロボットを動作させるときは可動範囲内に立ち入らないこと。もし、整備等を行うときは 必ず 2 名以上で行うように。
- コンピュータを使って作業するときは、ディスプレイ画面を長時間見続けないこと。
- 電源コードの不完全な接続、発熱等に注意する。

(12)生体情報工学研究室

1) 研究室の使用について

- 整理、整頓、清掃して清潔に使用すること。
- コンピュータ、精密機器等が整備されているため、禁煙とする。
- 電熱器類を使用した者は、必ず本人が電源を切ること。
- ガス器具を使用した者は、必ず本人がガス栓を締めること。

2) コンピュータの使用について

- 教育、研究以外の目的で、使用しないこと。
- 使用した本人が、必ず電源を切ること。
- 周辺での飲食をしないこと。

3) 実験機器の使用について

- 使用した機器を、必ず元に戻すこと。
- 使用する前に、必ず説明書を熟読すること。
- 故障したら、至急、教員に連絡すること。

(13)環境情報研究室

- 燃焼実験用の定容容器及び燃料ガス等の高圧ボンベは爆発の危険があるので、使用方法・動作原理を熟知・理解のうえ教員の許可を得てから使用すること。
- 燃料噴射装置は高圧燃料の噴出により大けがをする危険があるので、使用方法・動作原理を熟知・理解のうえ教員の許可を得てから使用すること。
- レーザー光源は使用法を誤ると失明の危険があるので、使用方法・動作原理を熟知・理解のうえ教員の許可を得てから使用すること。
- 燃焼容器等の加熱用電気ヒーターは、火災の危険があるので帰宅時に必ず切確認すること。
- 高圧ガスボンベ及び冷却水の元栓は、爆発や漏水の危険があるので帰宅時に必ず閉確認すること。
- 燃料保管庫周辺では、火災発生の危険があるので火気厳禁とする。
- ボール盤等の工作機械は使用方法を誤ると大けがをする危険があるので、使用方法・動作原理を熟知・理解のうえ教員の許可を得てから使用すること。使用時にはゴーグル（防塵眼鏡）を着用し、軍手や手袋は巻き込まれる危険があるので着用しないこと。

(14)情報統計学研究室

- 禁煙
- 窓の閉め忘れ、電灯の消し忘れに注意すること。
- 研究室内の備品は丁寧に扱うこと。
- 研究室内の備品は研究室内のみで使用すること（自宅などに持ち帰らない。）
- 使ったものは元の場所に必ず戻すこと。
- ゴミはゴミ箱へ入れること。

(15)設計システム研究室

1) 一般的な注意事項

- 研究室内では、土足厳禁、禁煙とする。
- 整理、整頓、清掃を心がけること。
- 最後に帰る人は、エアコンやプリンタ等の電源が切れていることを確認すること。
- 入退室時には挨拶をすること。
- 研究室の個人用机には貴重品を置かないこと。
- 私物は各自ロッカーに保管すること。
- 地震時の危険を防ぐために、高いところに重いものを置かないこと。

- 重量物の移動には、複数名で作業を行うこと。
- 研究室内の備品は丁寧に扱うこと。

2) コンピュータ使用上の注意事項

- コンピュータの前では、飲食はしないこと。
- 床配線に注意し、電源コードを引っかけないように特に注意すること。
- ディスプレイの長時間凝視を避け、適宜遠方を見るようにすること。
- コンピュータ、プリンタの使用は、研究・教育の目的に限ること。

４．３．４　その他の注意事項

(1) 事務機器の取扱いにおける注意事項

機械系学科資料室に複写機、裁断機（紙切りカッター)、オーバヘッド・プロジェクタなどが用意してあり、卒業研究履修者、大学院生は使用可能である。また、各研究室、理工学部事務室にも事務機が設置されている。安全の基本は、動いている部分や高熱、高電圧となる部分に触らないこと、触っている状態で機械、器具を動作させないことである。

1) 複写機（コピー）

- 故障の場合は担当職員あるいは事務室に連絡する。高温、高電圧の部分があるので、不用意に修理用の扉を開けたり、内部にさわらないこと。
- 機器異常状態はディスプレイに表示されるのでその指示に従うこと。また必要なら説明書を熟読すること。
- 保守は業者が行う。

2) 裁断機（紙切りカッター）

- きわめて危険な機械であるので、安易な目的の使用は慎むこと。
- 操作方法を熟知し、確実な操作をすること。
- 停止中であっても刃物に触ったり、刃物の下に指を入れないこと。
- 刃物の交換、調節は担当職員に依頼すること。

(2) 学外工場実習における注意事項

機械情報工学科では原則として学外工場実習は実施しない。卒業研究で学外の工場にて実習をおこなう場合は、担当の教員からよく説明をうけること。

(3) 学外工場見学における注意事項

1) 当該工場の資料は事前に渡されるので熟読しておくこと。禁止事項などもこれに含まれることがある。

2) 服装、靴は学内の実験の注意事項と同じ。サンダルは厳禁。本学の学生代表と心得、服装に留意すること。

3) 場合により工場あるいは適当な場所での現地集合となることがある。移動は必ず公共交通機関を使うこと。絶対、個人の車やバイクは利用しないこと。

4) 工場内では教員の指示だけでなく、工場の案内担当者の指示に従うこと。必要によりヘルメットを着用することがある。

5) 見学中は立入りを禁じられている場所には入らない、機械や製品に触らない、集団から離れてうろつき歩きはしない、などの基本的事項を守ること。搬送用移動機械（無人の場合がある）に注意する。

6) 作業中の人に不用意に声をかけない。質問は案内者にすること。